



岡山大学附属図書館
Okayama University Libraries



岡山シティミュージアム



林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

2022 IKEDAKEBUNKO EZUTEN *Okayama Castle and its Citizens' Lives*



〔御城内御絵図〕

岡山城と人々のくらし

令和4年度企画展 池田家文庫絵図展

岡山城と人々のくらし

Okayama Castle and its Citizens' Lives

令和4年度
企画展

池田家文庫絵図展

- 会 期 令和4年10月22日(土)～11月20日(日)
- 会 場 岡山シティミュージアム 5階展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 共 催 林原美術館
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムは、共同で池田家文庫絵図展「岡山城と人々の暮らし」を開催します。

池田家文庫絵図展は、岡山大学附属図書館が所蔵する備前岡山藩池田家の藩政資料、池田家文庫を広く公開し、貴重な実物をご覧いただくために、岡山大学と岡山市の文化事業協力協定により実施しているもので、本年度で18回目の開催です。とりわけ池田家文庫に伝えられてきた数々の絵図は、彩りもあざやかな上に豊富な情報で江戸時代の社会を映し出しており、本展の特徴をなすものです。

今回は、テーマを「岡山城と人々の暮らし」としました。

折しも岡山城天守閣が1966年の再建以来、初めての大規模改修を終えようとしています。岡山のまちの始まりは、旭川のほとりに戦国大名・宇喜多氏の居城が定められたことにあります。そして江戸時代には、池田氏が城を受け継ぎ、領国支配の要としてその城下町を発展させました。うち続く泰平の世の中で、城下には武士・町人・寺社それぞれの社会が息づき、くらしが営まれて行きました。

そこで本展では、池田家文庫の関係資料から、城と城下町の絵図をはじめ、武士と町人の生業を支えた各種施設の図面や、関係文書を展示するとともに、城下の市民が一体となって対処した災害と祭礼の記録も紹介します。

また、池田家文庫の資料52点に加えて、2019年以降本展に参加の林原美術館から池田家伝来の絵巻「東照宮御祭礼図絵巻」を特別出品いただき、江戸時代の岡山城下町最大のイベントであったこの祭礼の有様を示して、華を添えています。

この展覧会を通して多くの方が歴史に関心を深められ、池田家文庫など池田家に伝来した資料を地域の共有の財産と考え、大切に思って頂けたら幸いです。

2022年10月22日

岡山大学附属図書館
館長 甲 賀 研一郎
岡山シティミュージアム
館長 小 西 智 夫

関連行事

Event

開会式+オープニングトーク

日 時 令和4年10月22日(土) 午前9時20分～午前10時
場 所 岡山シティミュージアム 5階 ロビーおよび展示室
講 師 岡山大学 学術研究院社会文化科学学域 講師 東野 将伸

講演会「近世日光山と諸国の東照宮 ―建築とまつり―」

日 時 令和4年11月12日(土) 午後2時～午後4時
場 所 岡山シティミュージアム 4階 講義室
講 師 筑波大学人文社会系 准教授 山澤 学

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが令和4年10月22日(土)～11月20日(日)の会期で開催する「企画展 池田家文庫絵図展『岡山城と人々の暮らし』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は岡山大学附属図書館所蔵の資料は図版番号、資料名、頁数、年代、池田家文庫整理番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。原名のないものや原名が長文に及んでいるものについては内容に相当と思われる題名を選んで与え、〔 〕を付けて区別した。林原美術館所蔵の資料には林1から始まる番号を付し資料名、頁数、年代、林原美術館所蔵品番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。林1の写真は林原美術館の提供による。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学学術研究院社会文化科学学域講師 東野将伸が執筆した。林1については林原美術館主任学芸員 橋本龍が執筆した。本書の編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

I	令和4年度 池田家文庫絵図展 「岡山城と人々の暮らし」解説	1
II	出展資料解説	3
III	出展資料目録	20
IV	池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録	21

はじめに

岡山城は16世紀初期以来金光氏の居城であったが、天正元年（1573）に備前国の戦国大名宇喜多直家の居城となった。直家の跡を継いだ宇喜多秀家は、本丸の移転、旭川の付け替えなどの大規模な工事を行い、岡山城と城下町を江戸時代のものに近い形へと造り替えた。その後、池田氏へと藩主が移り代わった後にも、岡山城は岡山藩の中心地として機能し、現在に至るまで岡山の象徴となっている。なお、岡山城天守閣には黒塗りの板が張られており、その景観から「烏城」とも称されてきた。岡山城は明治期に多数の建物が取り壊され、アジア・太平洋戦争時の岡山空襲（昭和20年（1945）6月29日）によって天守閣と石山門が焼失したが、昭和41年（1966）に天守閣が再建された。現在は天守閣の改修中であり、令和4年（2022）11月にリニューアルオープンの予定である。

過去の池田家文庫等貴重資料展（於：岡山大学附属図書館）・池田家文庫絵図展では、平成9年（1997）度に「絵図に見る岡山城」、同16年（2004）度に「岡山城下町をあるく」、同30年（2018）度に「岡山藩と寺社」など、岡山城と城下町をたびたび取り上げてきた。今年度の展示では、城と町の絵図に加えて、城下の人々の暮らしや文化に関わる史料も取り上げた。本展示を通じて、江戸時代の岡山城と城下町の雰囲気を感じ取っていただければ幸いである。

(1) 岡山城と武士

岡山城と城下町は、北東部を旭川が流れ、南西方向には三重の堀（内側から内堀・中堀・外堀）が配されることで、城下の防衛体制が構築されていた。城郭内には本丸、西の丸、二の丸があり、この外側には三の曲輪・三の外曲輪および町人地、武家地、寺社地が広がっていた。二の丸には上級家臣の屋敷や藩の役所、西の丸には藩主子弟や前当主の居所、本丸には中の段に政務を執り行う表書院、本段に藩主の生活空間である御殿や天守閣が配されていた。また、本丸と西の丸の間の石山には池田家祖廟、18世紀初期以降には円務院がそれぞれ設けられており、池田家の「イエ」に関する宗教施設が配されていた。二の丸・西の丸の入り口など、岡山城の各所には門が設けられており、通行の監視がなされていた。

現在の岡山城は本丸の領域が烏城公園として整備されているが、江戸時代にはより広い領域が城郭に含まれていた。本丸からみて旭川を挟んだ北東部には後楽園が広がっているが、同園は元禄13年（1700）に一応の完成をみた後、様々な改築が加えられつつ、代々の藩主や家臣・領民の憩いの場となっていた。

藩士が居住した武家屋敷は二の丸だけでなく、中堀の外側で西を外堀によって画された三の外曲輪、外堀の西側や西川の西部にも広がっており、本丸から離れた場所には下級家臣の屋敷や足輕の組屋敷などが多くおかれていた。また、旭川の東岸にも重臣の下屋敷や下級家臣の屋敷などがおかれていた。岡山城や各役所で働く武士たちの中で、最上層に位置したのは家老である。筆頭家老であった伊木家の屋敷は、岡山城本丸に最も近い位置（現在の相生橋西詰周辺）に置かれており、この他に備前国邑久郡虫明（現在の瀬戸内市邑久町虫明）に陣屋を有していた。以上のように家老は城下の屋敷に加えて備前国内に陣屋を設けており、陣屋を拠点として各方面の防備も担当していた。

池田家文庫は、家老などの上級家臣に限らず、下級家臣や町人・農民で役職を務めた者たちの「奉公書」も多く残されていることが特徴の一つである。これらの「奉公書」の内容からは、岡山藩政に携わった広い階層の人々の来歴を知ることができ、中には宇喜多氏の旧臣であるという由緒を持つ者もみられた。

(2) 岡山城下町と町人

岡山城下では、町人の居住する町屋地がある程度区画されていた。旭川西岸では、内堀の外側で西を中堀によって画された三の曲輪、二の丸から堀を挟んだ南部一帯、外堀の西部・南部などに町屋地が集中していた。旭川東岸では、西国街道沿いに町屋地が並んでいた。旭川中州の西中島町・東中島町にも町屋地が広がり、特に前者は旅商人を相手とする旅籠町であった。池田家文庫の絵図の中には、各町の様子がうかがえるものも残されており、特に「下出石町惣絵図」からは、奥行の細長い町屋が通りに間口を面している構造をよく知ることができる。また、城下町の各所には門や木戸が設置され、番人が置かれる場合もみられ、治安維持などの機能を果たしていた。

岡山城下町では、岡山藩士の町奉行が支配を担当し、そのもとで町人の惣年寄を頂点とする町政機構が形成されていた。幕末期の惣年寄としては国富家や河本家が著名であり、両家に伝来した古文書・書籍類が岡山市立中央図書館に所蔵されている。この惣年寄が町政を管轄するとともに、各町には名主・年寄・五人組頭がおかれていた。町支配の拠点としては、栄町（現在の表町の一部）に町会所が設けられていた。

以上のような役職の者以外にも、町人や具足師・左官といった職人など、様々な住民が岡山藩への「出入町人」とされていた。有力町人の中には、莫大な御用金を藩に上納したり、災害の発生時には救済のための金穀を拠出したりする者も複数みられた。多くの城下住民の力量や技術にも基づきつつ藩政や武士の生活が成り立っており、また住民同士の交流や相互扶助によって、町の社会秩序が保たれていたのである。

(3) 岡山城下の災害と祭礼

水害・干害・火事など、江戸時代の岡山は多くの災害に襲われた。その時々で人々は相互扶助も含めて対応しつつ、領内寺社での祈祷などにより、災害を鎮めることも願われていた。備前一宮（現在の吉備津彦神社）、酒折宮（現在の岡山神社）、伊勢宮（現在の伊勢神社）などへの祈願の記録が多く残っており、また平時にも岡山藩主は領内の寺社をたびたび参詣していた。なお、岡山城下では外堀沿いに寺院が集中的に配されて寺町となっており、旭川東岸にも国清寺や東照宮などの岡山藩にとって重要な寺社が置かれていた。

宗教的儀式として、寺院の門前町や城下町では決まった時期に祭礼が行われ、多くの人々により賑わっていた。江戸時代の岡山城下の代表的な祭礼として、東照宮祭礼があった。岡山東照宮（現在の玉井宮東照宮）は正保2年（1645）に池田光政によって勧請されている。その後、同3年（1646）より東照宮祭礼が行われるようになり、この時には城下の南東にある丘の上の東照宮から城下町の北部に設けられた御旅所まで神輿および人々の行列（練物）が城下町を移動しており、行列には城下の各町の住民も参加していた。元文4年（1739）から4年間は、城下の62町の惣町が行列に参加しており、町人の祭礼参加が最も盛んにみられた。近世中後期の東照宮祭礼を描いた絵巻も複数現存しており、祭礼の様子を視覚的に知ることができる。ただし、岡山の東照宮祭礼は明治維新後に途絶え、現在は行われていない。

以上の通り、岡山城下の人々は、災害をはじめとする様々な困難と向き合いつつ、時には祭礼などの娯楽を楽しむ中で、日々の暮らしを力強く営んでいたのである。

岡山大学学術研究院社会文化科学学域 講師 東野将伸

〔参考文献〕

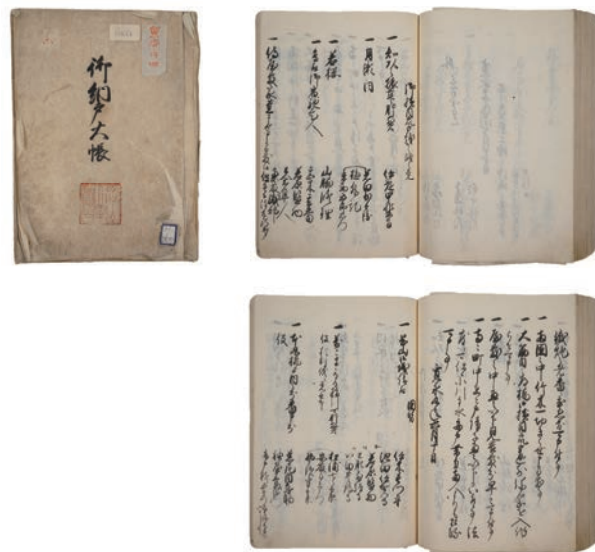
- 岡山大学附属図書館編『絵図で歩く岡山城下町』（吉備人出版、2009年）
 片山新助『よみがえる岡山城下町』（山陽新聞社、1996年）
 神原邦男監修『東照宮御祭礼と岡山城下のひとびと』上巻・下巻（備前池田家の伝えた文化遺産を守る会、2015年）
 倉地克直「東照宮祭礼について」（同『近世の民衆と支配思想』柏書房、1996年所収）
 倉地克直『池田綱政 元禄時代を生きた岡山藩主』（吉川弘文館、2019年）
 谷口澄夫『岡山藩政史の研究』（塙書房、1964年）
 福原敏男「祭礼の練物 岡山東照宮祭礼」（『国立歴史民俗博物館研究報告』77、1999年）
 藤井学・狩野久・竹林榮一・倉地克直・前田昌義『岡山県の歴史』（山川出版社、2000年）
 岡山県史編纂委員会編『岡山県史』第六卷近世Ⅰ、第七卷近世Ⅱ、第八卷近世Ⅲ、第九卷近世Ⅳ、第十卷近代Ⅰ（岡山県、1984～1989年）
 国史大辞典編纂委員会編『国史大辞典』全15巻（吉川弘文館、1979年～1997年）
 岡山市ホームページ（特別文庫（貴重資料）、<https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000010853.html>、2022年8月22日最終閲覧）

【岡山城と武士】

1 御納戸大帳

縦1冊 寛永7年～寛文8年（1630～1668）
E1-1 28.0×21.0

岡山藩政確立期の幕府法令および岡山藩独自の重要な法令を収録したものである。寛永9年（1632）の鳥取から岡山への転封にあたって出された法令も多く収められている。展示した箇所（右下図）は、右頁は寛永9年（1632）6月10日付の「御横目衆御越之時之覚」の後半部分で、鳥取城引き渡しに際して出された法度。左頁は、6月13日付の書付で、岡山城請け取りに際して城中および内山下・外山下の番等の役割を書き上げたもの。家老の伊木長門・池田伊賀らは7月16日に岡山城を請け取り、光政も8月12日に入城した。



2 備前国岡山城絵図

1幅（正保期〈1644～1648〉）
T3-84 242.4×196.7

正保国絵図とともに幕府に提出された城絵図。天守台の大きさ、丸の内の櫓や門の配置、石垣の高さや敷地の広さ、堀の幅や深さなどが克明に記されている。城下町内の武家地・町家地・寺地の区別、道の長さなども書き込まれている。旭川の洲の「御花畠」には台徳院（徳川秀忠）御霊屋が見える。江戸時代には各藩に国絵図の作成がたびたび命じられたが、城絵図は、軍事情報の掌握が重視された正保度のみ命じられたものである。



3 〔御城内御絵図〕

1枚 元禄13年（1700）3月
T5-1 230.6×194.4

岡山城本丸の建物の配置および間取りを示す図。青鼠色が瓦葺き、薄茶色が檜皮葺き、黄土色は板葺きを示している。本丸は、本段・中の段・下の段からなり、本段には天守閣（三重六層）と御殿、中の段には表書院があった。本段御殿は藩主の私的な生活空間であり、表書院は家臣が出仕し、藩主が公務を行う場であった。表書院のうち庭の南にあたるのが中の御殿であり、ここにあった能舞台は後に後楽園に移された。庭の北には南座敷があり、さらにその北に書院造りの招雲閣があった。



4 御城図

1 枚 年月日未詳
T5-13-2 51.4×91.7

岡山城本丸の中の段・下の段の南西部を主に描いた図であり、北東一帯に藩主が公務を行った表書院がみえる。表書院は東南に玄関があり、内部は表・中・奥の三つの部分に分かれていた。城内へ入る主なルートとして、南の目安橋を通過して内堀を渡り、正面の高麗門・西側の内下馬門を通過して本丸下の段に入るルート（大手筋）があった。



5 御本段図

1 枚 年月日未詳
T5-13-1 50.3×73.5

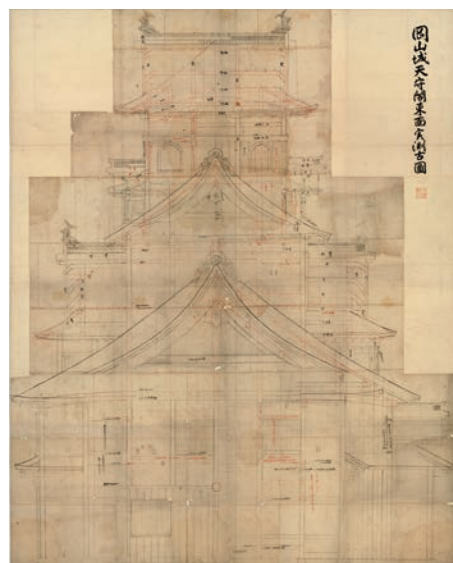
岡山城本丸の本段を描いた図であり、中央に御殿、北側に天守があり、門として南西に不明門、東に旭川方面へ通じる「御門」（六十一雁木門）がみえる。本段を囲う石垣に加えて、各櫓や御殿の部屋の広さ・名称などが記されており、藩主の居住空間の様相がうかがえる。



6 岡山城天守閣東面実測古図

1 枚 年月日未詳
T3-68 235.2×190.0

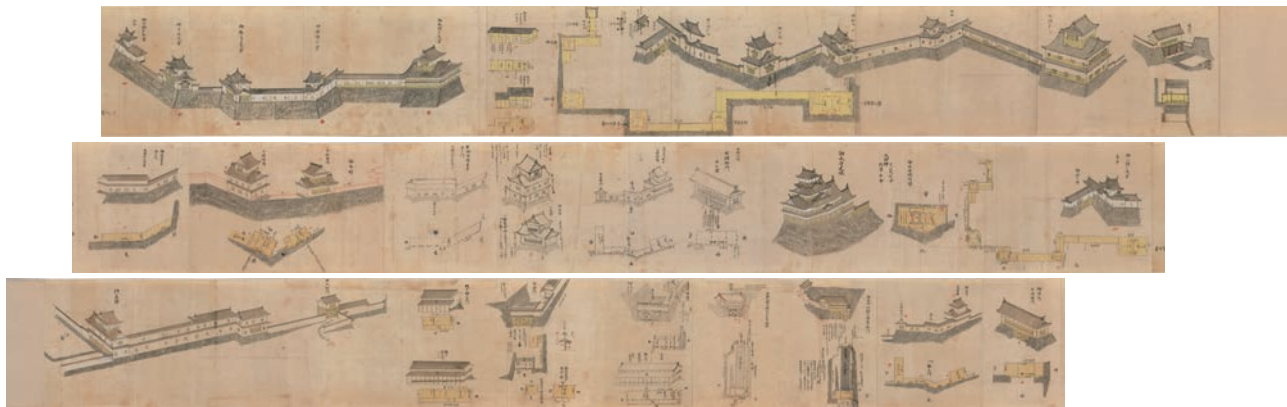
岡山城の天守閣は宇喜多秀家によって慶長2年（1597）に完成された。明治の廃城後も存置され、国宝にも指定されたが、昭和20年（1945）6月29日の岡山空襲によって焼失した。三重六層の構造をもち、不等辺五角形の天守台に建てられているため、四方からの外観は均一でなく変化に富んでいる。最上階は三間四方で安土城と同じ大きさであった。この指図では梁・桁・柱をはじめ千鳥破風なども細かく描かれており、往時の天守閣の姿をしのぶことができる。



7 牙城郭櫓実測図

1 帖 年月日未詳
T3-62 26.7×720.4

岡山城本丸にある門・櫓・蔵および天守閣などの建造物について、その立面図と平面指図とを書上げたもの。折本に仕立てられており、表紙題箋に「牙城郭櫓実測図 元小作事棟梁秘書」とある。城郭の構造を詳しく知ることができるため、軍事機密とされ、藩の小作事方棟梁の手元に秘書として伝えられたのであろう。



8 西御丸御絵図

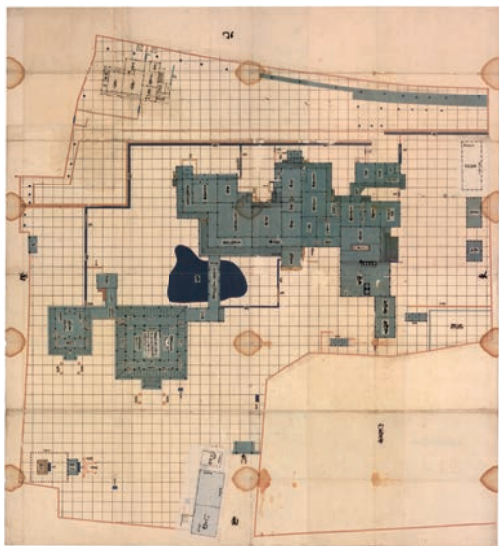
1枚 宝暦6年(1756)8月
T5-32 175.0×119.2

岡山城の本丸から石山を挟んだ西部には、西の丸が造られていた。西の丸は隠居した前当主や藩主の子弟が居住していた区画であり、西端の西手櫓(国指定重要文化財)や石垣の一部が現存している。西の丸には敷地の大半に建物が並んでおり、南西部には苑池を有する庭園が配されていた。本絵図南東に石山門(洪御門)があり、この門を抜けて橋を渡った南方面に二の丸が広がっていた。



9 円務院惣絵図

1枚 年月日未詳
T5-89 162.8×149.6



金剛山常住寺円務院は天台宗の寺院であり、池田綱政の命により池田家の祈願所として建立された。城内の石山において宝永4年(1707)10月に普請が始まり、同5年(1708)3月に完成している。円務院の東隣には池田光政が建立した祖廟があり、池田家の「イエ」に関わる宗教施設が集中して配されていた。

10 〔備前国岡山城堀浚修復願絵図〕

1枚 万治2年(1659)7月29日 T7-29-1 147.2×94.6

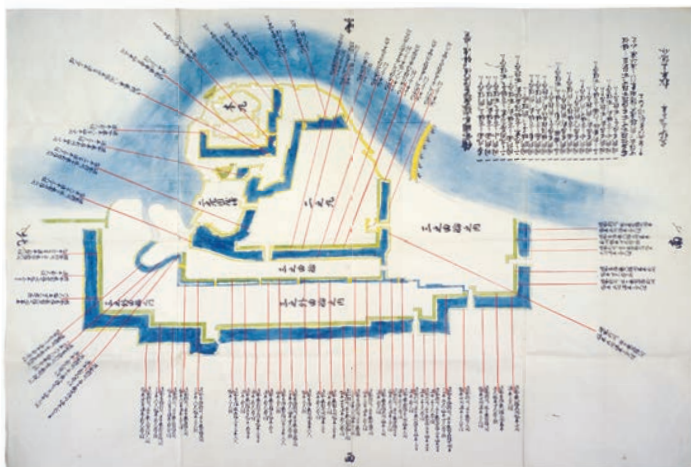


洪水で埋まった堀の砂を浚え取ることを、万治2年(1659)に幕府に願い出た際の絵図。黄色が洪水で埋まった砂を示しており、その量は坪にして五千坪にのぼると記されている。この絵図に寛文13年(1673)に付紙が付けられ、新たな願いが出された。それによると、万治の洪水の堀浚えは寛文13年になっても終わっておらず、引き続き堀浚えを行いたいこと、加えて朱色の部分は悪水抜き樋口が砂で埋まったため、あわせて浚えたいと願っている。

11 〔備前国岡山城廻普請願絵図〕

1枚 文化13年(1816)
T3-83 140.8×94.4

文化13年(1816)に岡山城の石垣や堀等の修復を幕府へ願い出た際の絵図である。それぞれの破損箇所は、石垣が4ヶ所、土居が14ヶ所、堀の埋まっている箇所が42ヶ所であり、これらを元の通り修復したい旨が述べられている。破損箇所には朱線が引かれ、破損状況が記されている。



12 〔下之御屋敷御絵図〕

1 枚 年月日未詳 T5-39 79.4×135.6



岡山城下の西川沿いにあった下屋敷を描いた絵図である。詳細は不明だが、西川に架かる「十三ノ橋」や「妙勝寺」の書き込みがみられることから、現在の岡山市北区新道の南部などにあたる区域にあったとみられ、建物に加えて庭園や菜園が広がっていたようである。

13 〔故郡会所・旧県庁ノ図〕

1 枚 (明治期)
T4-6-1 75.4×54.5

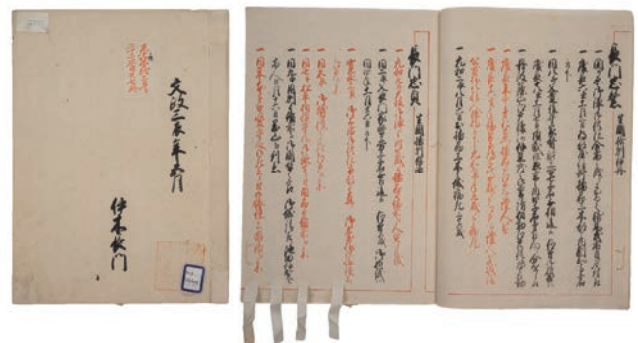
帯封の裏書に「故郡会所・旧県庁ノ図」とあり、現在の岡山市北区天神町と石関町にまたがる場所にあった旧県庁（旧岡山藩郡会所）の間取りを記した図とみられる。この後、県庁は明治4年（1871）12月に弓之町へ、そして明治12年（1879）に天神山に移されている。



14 〔御家老方御奉公書抜書〕（伊木長門）

縦1冊 文政3年（1820）
D3-3348-(5) 27.5×20.1

岡山藩筆頭家老であった伊木家代々の事績を記した奉公書である。展示箇所は寛永9年（1632）に池田光政が岡山藩へ国替となった時の伊木家当主である忠貞の事績であり、同年7月16日に池田伊賀とともに岡山城を受け取ったことが記されている。家老伊木家の屋敷は、本丸から最も近い二の丸北東端にあり、旭川の川東にも下屋敷を有していた。



15 〔東西御門番人誓詞〕

1 枚 享保3年（1718）3月6日～明和8年（1771）7月9日
F3-2-(3) 29.6×161.3

岡山城下二之丸の東門・西門の門番を務める際の誓詞である。享保3年～明和8年（1718～1771）にわたって書き継がれている。女性の出入りの制限や火の元の注意など門番の職務が記され、起請の内容に背いた時には神罰・冥罰を受けることを承諾するものである。



【岡山城下町と町人】

16 〔岡山絵図〕

1 幅 宝永5年(1708)カ T6-24 158.2×137.3

江戸時代中頃の岡山城下町の様子を示す絵図。余白部分に家臣の屋敷割りが細かく記されている。色分けは、土町は白色、町屋は黄色、道は朱色、川は浅黄色、寺は薄紫色、足軽屋敷は鼠色、下屋敷は黄土色、野田は白緑、藪は緑青、土手は草ノ汁、古関之木は白緑、新関之木は白、となっている。東山の東照宮がはっきり描かれている。



17 備前岡山地理家宅一枚図

1 枚 文久元年(1861) T6-32 302.4×168.3

城下の区画、とりわけ武家地の屋敷割・居住者名が詳細に記された城下図である。本図に先行する時期の岡山城下絵図は寛永、慶安、元禄、宝永期のものがそれぞれ残存しているが、18世紀初期の宝永期以降、幕末期の本絵図までの間の時期のものは少なくとも池田家文庫には残存していない。本図は表紙付き、桐箱入りで、川下図2枚と畝帳1冊が付されている。ほぼ同内容の文久3年(1863)の絵図も残存している。

18 備前国郡村仮名附帳 備前国岡山城下町仮名附帳

縦1冊 享和3年(1803) A2-18 27.3×19.6

岡山城下町と備前国・備中国の岡山藩領村々の名称が振り仮名付きで記された帳簿である。幕府勘定奉行からの命を受けて調査がなされた旨が、村々の名称の書き上げの後に記されている。展示箇所(右下図)は下市町、瀧本町、上出石町、中出石町、下出石町、石関町、野田屋町、桶屋町の名称を振り仮名付きで記した箇所であり、いずれも城下町の中でも北部に位置する町である。上出石町、中出石町、下出石町、石関町は外堀の内側(郭内)、下市町、瀧本町、野田屋町、桶屋町は外堀の外側(郭外)にそれぞれ位置しており、上記の町はおおむね町人地であった。



19 町会所絵図

1 枚 年月日未詳 T4-3 70.0×62.8

城下町の行政を司る役所である町会所の絵図。寛文9年(1669)栄町に設けられた。町方の責任者は惣年寄(初めは大年寄といった)で、数人が勤めた。城下の町は十数町ずつの組に分かれ、1つの町組を1人の惣年寄が管轄した。各町には、名主(初めは目代といった)・年寄・五人組頭が置かれた。「御用聞所」「御使者ノ間」「日次ノ間」などは町奉行を初めとした藩役人が詰める空間で、「惣年寄用場」とその周辺は町方役人が事務を執る空間だろう。南東の隅には「牢屋」も見える。

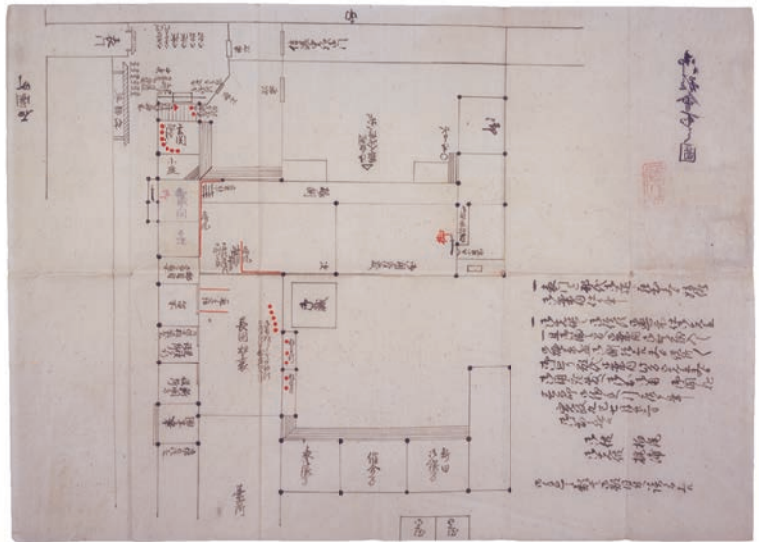


20 〔御郡会所之図〕

1枚（寛政9年〈1797〉）

T4-8 38.4×27.5

岡山藩の地方支配を担った郡会所を描いた図である。「郡目付当番所」、「催合方」、「新田御銀方」など、地方支配や財政に関わる部署の名称がみられる。本図の書き込みから、寛政9年（1797）7月22日に藩主を郡会所に迎える際の経路や作法をまとめて記したものであることがわかる。



21 下出石町惣絵図

1枚 元治元年（1864）9月23日

T6-2 86.8×72.7

町内の砂場屋治郎吉が描いた下出石町の略図。当時の町人町の様子を知ることができる絵図である。道路に面し、間口が狭く、奥行きの深い、町屋特有の屋敷割がよく分かる。旭川に面しており、木屋（材木商）や大工が多いのがこの町の特徴である。

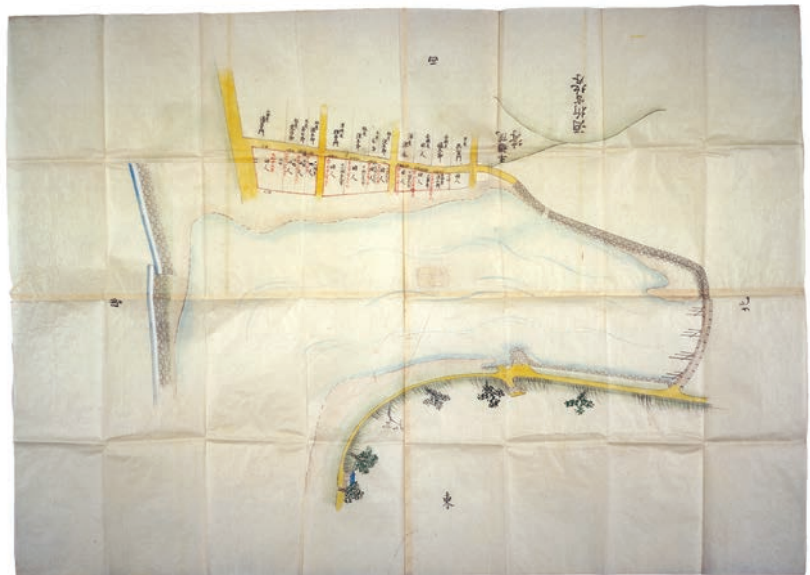


22 酒折宮地内ヨリ石関町之図

1枚 年月日未詳

T6-27 56.1×79.8

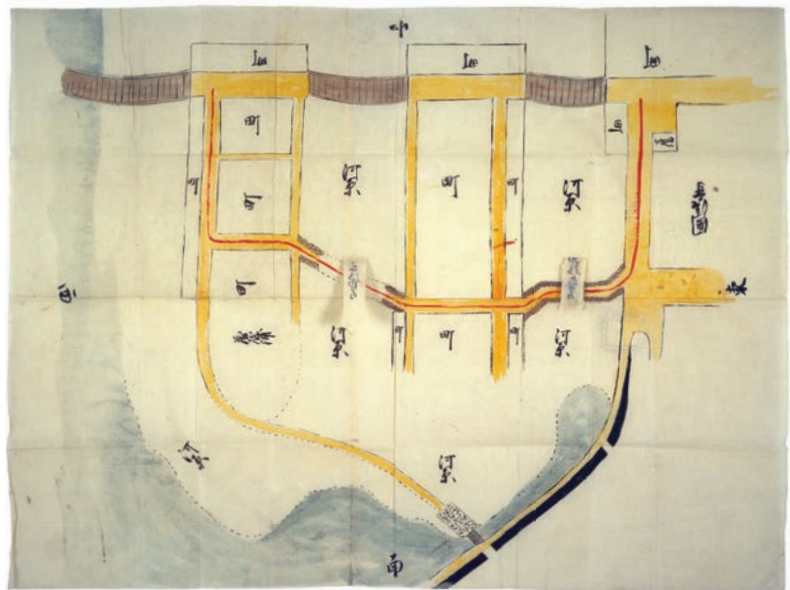
酒折宮は現在の岡山神社にあたる。古くに岡山と呼ばれていた現在の岡山城本丸のある丘にあったものを宇喜多直家が岡山城を造営するにあたって現在地に移した。歴代岡山城主の庇護を受け、延宝2年（1674）には綱政から社領300石を寄進されている。社僧寺として平福院・実成院・福寿院があった。石関町の道の両側に町人の屋敷があり、いわゆる「両側町」の様相を呈している。



23 〔備前国岡山中島町仮橋絵図〕

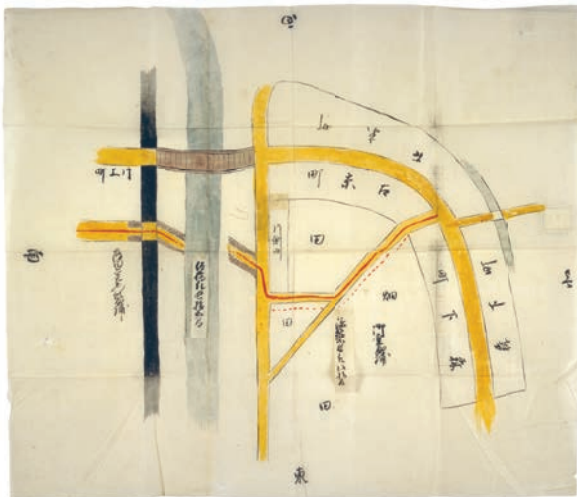
1枚 年月日未詳 T6-1-3 38.0×50.6

中橋・小橋の架け替えなどに際して、西中島・東中島の南部に仮橋を建造した臨時の迂回路の絵図とみられる。現在この辺りには、旭川を横断する高架のかたちで新京橋が架かっている。仮橋の北部には西から京橋・中橋・小橋が描かれている。



24 〔備前国岡山古京町より片上町への仮橋絵図〕

1枚 年月日未詳 T6-1-4 38.0×43.7

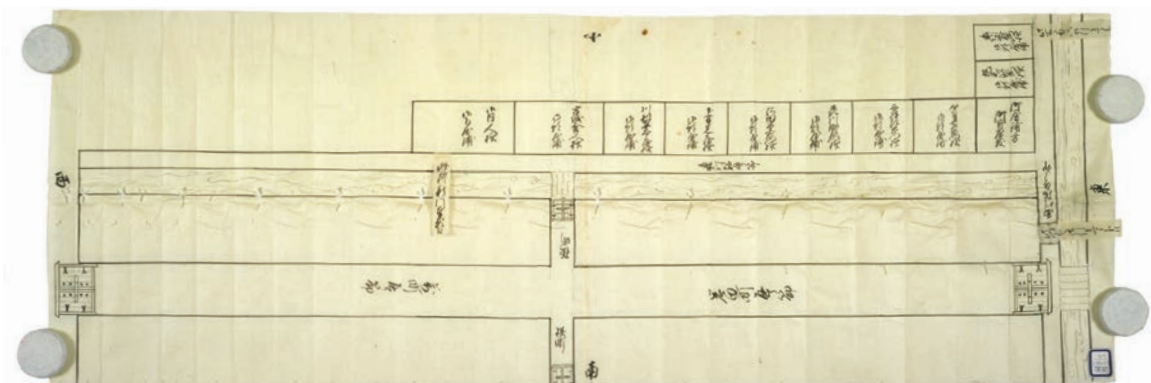


御成川北岸の古京町から南岸の片上町（現在の中区中納言町）へ架かる仮橋の建造に際して作成された絵図とみられる。仮橋の建造予定地の西に本来の橋が描かれている。現在この橋のやや北の位置から旭川を渡って相生橋が架けられている。

25 〔岩田町新門願絵図〕

1枚 年月日未詳 T5-138-15 33.8×94.4

西川に架かる二ノ橋を西方向に渡ったところにある岩田町（現在の岡山市北区岩田町）および萬町に門を設置することを願い出た際の史料とみられ、門の新設や移設について記した貼紙が複数みられる。萬町の西端の一ノ宮口には惣門・番小屋・常夜燈が設置されており、ここで岡山城下を出ることとなっていた。



26 御奉公之品書上

豎1冊 明治3年(1870)正月 D3-2917 27.4×20.2



国富家は岡山城下紙屋町にて魚問屋を営んだ町人であり、近世後期には紙屋町名主、年寄役などを務めた。幕末の当主国富源次郎（もと三郎次）は城下の惣年寄役を務めている。展示箇所には彼の息子の源太郎（改名して源次郎）の慶応3年（1867）の事績が記されており、惣年寄に代って岡山城下の東照宮祭礼でその役割を勤めた旨などが記されている。本史料は、源太郎の弟、庄太郎のもとへ養子に入った大三郎が、源太郎の病没を機に、源太郎までの国富家の当主の経歴や藩への貢献についてまとめて、藩に提出したものである。

27 先祖書并御奉公書上

豎1冊 明治3年(1870)12月29日 D3-2916 27.8×20.0

国富庄太郎は幕末期に惣年寄格であった国富源次郎（もと源太郎）の弟であり、自身も幕末期には惣年寄格を与えられ、明治元年11月には小十人格となっている。展示箇所は国富家の来歴について記した冒頭の部分である。国富左京之進頼敦から8代後の源右衛門頼資が宇喜多家に仕えて国富城（現在の岡山県中区国富）を守っていたが、慶長年間（1596～1615）の末年に関東使の神保長左衛門へ城を引き渡し、以降同家は「市民」となって魚問屋を営んだことが記されている。



28 先祖書并御奉公書上

豎1冊 明治3年(1870)12月29日 D3-2912 27.0×20.2

河本家は岡山城下の惣年寄役を務めた家である。本史料は、明治元年 11 月に河本又七郎が小十人格（翌々年に市井長と改称）に任じられたのち、河本家と自身の来歴・事績をまとめて提出したものである。展示箇所は、安永 3～4 年（1774～1775）における高祖父又七郎の事績を記した箇所であり、安永 3 年（1774）9 月 5 日に惣年寄役に任じられたことなどが記されている。



29 御出入町人名前帳

豎 1 冊 元治 2 年 (1865) 2 月 G9-164 24.8×17.8

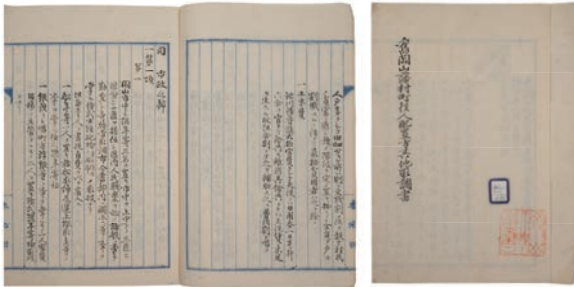


本史料は岡山藩の出入町人を記したものであり、町人の居所・名前・屋号ないし職種・出入となった年月日などが記されている。展示箇所では安政4年（1857）2月6日～同6年（1859）8月9日に出入を仰せつけられた者が記されており、御劔師、具足師、左官など武具や建築に関わる職種の者が記されている。別の箇所ではこれ以外にも表具師、鞆師、大工などの職種が確認できる。

30 旧岡山藩村町役人配置方其他取調書

豎 1 冊 明治 19 年 (1886) 11 月 E1-30-1 27.2×20.0

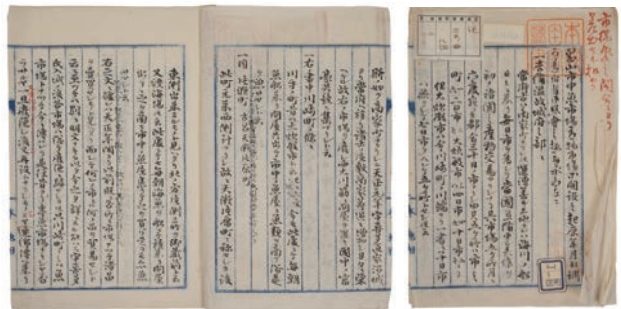
旧岡山藩の大庄屋・惣年寄以下の役職について、配置・職務権限・給料などの情報をまとめた文書である。展示箇所では岡山城下町において最上位の町人として町政を管轄した惣（総）年寄、諸船の取締を担当した船年寄、町方の銀子を管理した銀預りの職務内容や格式について記されている。



31 〔岡山市中魚市場青物市場等開設之起原〕

豎1冊 明治24年(1891)6月 K3-5 23.6×16.3

岡山市中の魚市場・青物市場などの開設の起源や年月をまとめた史料である。初めの丁に「市役処之間合ニヨリ差出セル扣^{ひかえ}」とあり、岡山市役所よりの問い合わせに池田家が回答した内容とみられる。『吉備温故秘録』や池田家の古文書を参照したことが記されている。展示箇所では、宇喜多直家の岡山城入部による城下町の繁栄、川崎町・片瀬町(両町で現在の天瀬・京橋町・京橋南町の一部に相当)の魚市場の起源などについて記されている。



32 官許岡山県市中略図

1枚 明治8年(1875) T6-13 37.1×76.6

岡山県下砂場(現在の野田屋町一丁目に相当)の士族柴岡正喬の著であり、同中之丁(中之町)渡辺源米の出版と記載されている。城下の町名や寺社の名称が書き込まれている。岡山県庁が弓之町の中堀西岸に朱点で記されているが、最初は明治4年(1871)7月31日から同年12月まで中堀東岸の石関町・旧岡山藩郡会所に置かれていた。その後、岡山県庁は明治12年(1879)に天神山に移転している。



33 岡山県医学校五百分一之図

1枚 (明治13年~同21年(1880~1888)頃)
R6-270-1 112.4×153.4

岡山県医学校は、明治3年(1870)に設立された岡山藩医学館の系譜をひく医学教育機関である。同学校としては明治13年~同21年(1880~1888)まで存続し、同16年(1883)には校舎を内山下の旧西の丸に移し、同年8月に甲種医学校として認められている。同学校の系譜をひく教育機関は、近現代を通じて様々な改編や改称を経つつ、現在の岡山大学医学部へとつながっている。



【岡山城下の災害と祭礼】

34 町方困窮之者ヲ救候一件

縦1冊 延享元年（1744） L4-7 26.7×20.3

延享元年（1744）に岡山城下に困窮者が大勢みられたことを受け、町方の者より救済のために出された米・麦を一筆ずつ記した史料である。全体では94名と3町（西大寺町・中之町・山崎町）より米501俵3斗1升（160.63石）、麦56俵（17.92石）が供出されている。展示箇所では、惣年寄3人から出された米の数量（22俵2斗8升3合）などが記されている。



35 甚雨洪水隣国之模様聞合覚

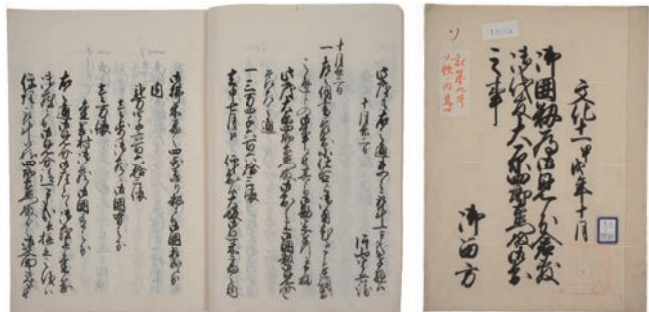
縦1冊 元文元年（1736） L4-18 27.5×19.8

元文元年（1736）5月には激しい雨が連日降り続いており、同月27日に洪水が発生している。本史料は、岡山藩が収集した近隣所領や隣国（備中国・備後国・美作国・播磨国）の被害状況を記したものである。展示箇所では、備中国の庭瀬藩領の町場である矢掛・板倉・宮内および吉備津神社領において洪水が発生し、未だ水が引いていないこと、同様に備中国の亀山藩領（青山家）、旗本の戸川家領・蒔田家領・花房家領でも同様の状況であることが記されており、広範な被害の様相がうかがえる。



36 御囲籾為御見分倉敷御代官大原四郎右衛門殿御出之事

縦1冊 文化11年（1814）10月 L4-6 27.4×20.0

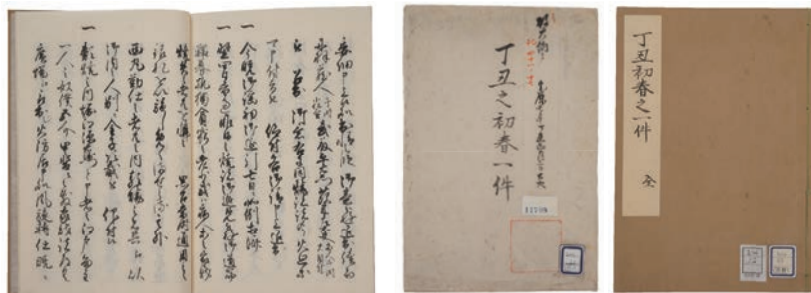


本史料は、文化11年（1814）10月23日～25日にかけて、倉敷代官の大原四郎右衛門が岡山城下と備前国上道郡金岡村の「御蔵」に保管されている「囲籾」を見分した際の文書類をまとめたものである。「囲籾」は備荒などを目的として保管されるものであり、岡山藩の「囲籾」を幕領の倉敷代官が見分していることは、幕府の全国支配の内実を知るうえで興味深い。展示箇所は囲籾の数量が城下「御蔵」に24,663俵（7,892.16石）、金岡村「御蔵」に10,000俵（3,200石）あることなどが記されている。

37 丁丑之初春一件

縦1冊（宝暦7年〈1757〉）
L4-12 23.2×16.5

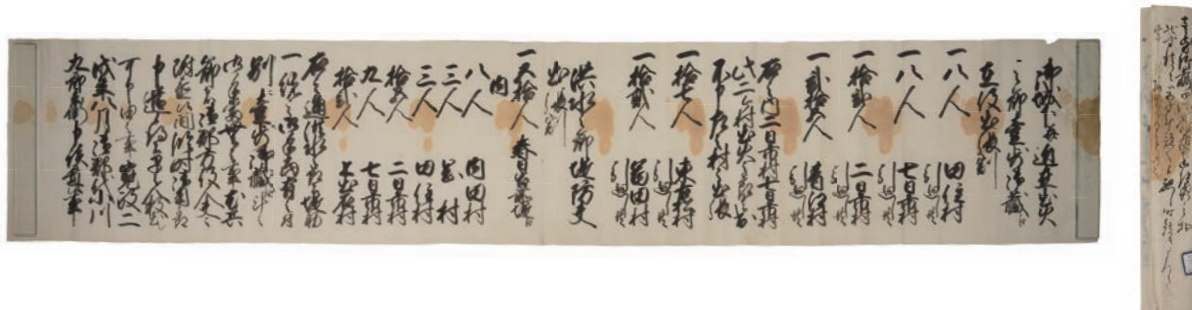
本史料は、宝暦7年（1757）正月3日に岡山城および城下において発生した火災の様子をまとめたものである。当時の藩主宗政は江戸に在府しており、隠居の継政が岡山城西の丸に居住していた。伊勢宮二番町の江見藤左衛門の屋敷長屋より出火し、「当地五十年來の大火」と表現されるほどの被害となったこと、火消役や町火消が消火活動に奔走した様子などが記され、展示箇所では「鰥寡孤独貧窮之者」や西の丸に仕える家臣で被害にあった者への救済の様相などが記されている。



38 御城下并近在出火之節壹歩御蔵江在役出張割

1枚 寛政2年(1790)8月 L4-16 31.7×170.0

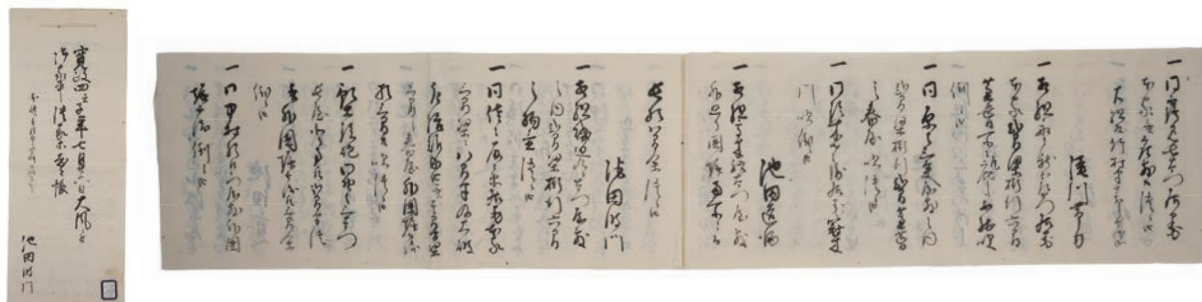
本史料は、岡山城下および近在から出火した場合と洪水が発生した際に、城下の蔵と堤防を守るため、近在の村々から人数を出す定めを記したものである。出火では田住、七日市、二日市、青江の各村が、洪水では内田、岡、田住、二日市、七日市、上出石の各村が人を出すことになっているが、七日市と二日市の両村で出火の場合は東古松と富田の両村が代わることとしている。あらかじめ対応する村や人数を定め、城下や近在の災害に対して迅速な対処ができる体制を整えておくことが目的であったとみられる。



39 寛政四壬子年七月廿六日大風二付御家中潰家等寄せ帳

横1冊 子年(寛政4<1792>)8月 L4-47-1 14.7×38.0

寛政4年(1792)7月26日の大風により、岡山藩家臣が受けた被害を記した帳簿である。倒壊した家屋は棟数127軒(うち半壊14軒)にのぼった。展示箇所では滝川帯刀・池田造酒・池田波門のそれぞれの組に属する藩士が受けた被害が記されている。本史料の末尾には、人馬の怪我や死亡は無かったことが記されている。



40 大風二付諸手の届書留

横1冊 寛政4年(1792)7月 L4-47-2 14.5×37.5

展示番号39と同じ大風により、岡山城内、「御後園」(後樂園)、城下町、藩内寺社などが受けた被害が記されている。城内不明門の番所、「御後園」延養亭の障子・雨戸・屋根などといった藩の施設の被害に加えて、展示箇所では城下で合計58軒の家屋が「潰家」となったことが記されており、大風の強さや被害の大きさがうかがえる。



41 岡山大洪水書類

縦1冊 明治25年(1892)7月
L4-11 24.6×16.9

明治25年(1892)、明治26年(1893)の両年には、岡山県全域で大規模な洪水が発生し、岡山城下も甚大な被害を受けた。特に後者の洪水は近現代の岡山の水害の中でも昭和9年(1934)の室戸台風による水害と並んで最大規模のものであった。展示史料は明治25年(1892)の水害時の池田家の対応をまとめたものであり、市中の被害の様子やこの洪水によって被った損害金額などが記されている。



42 御疱瘡之節於御国御祈禱仕御札江戸江指上目録

横1冊 享保16年(1731)3月 C5-595 14.0×40.6

岡山藩主かそれに近い者の疱瘡(天然痘)罹患を受けて、「伊勢御祓」(伊勢宮、現在の伊勢神社カ)、「一宮」(吉備津彦神社)、「酒折宮」(現在の岡山神社)、「祇園宮」(祇園神社、上道郡祇園村)、円務院(城内石山)での祈禱がなされており、本史料ではその内容がまとめられている。



43 御郡中五穀成就御祈禱記

縦1冊 天保7年～明治3年(1836～1870)
P1-155 27.6×18.0

天保7年(1836)、同8年(1837)、弘化2年(1845)、安政6年(1859)、文久2年(1862)の五穀成就・悪病流行(退散)・降雨祈念の祈禱について、関連史料の写しがまとめられている。酒折宮は「御城内之鎮守、御上之御氏神」、「一宮」(吉備津彦神社、備前国一宮)は「何事二不寄御国中之所ハ一宮江被 仰付」、「御國中惣鎮守之 御社」と記されており、酒折宮は岡山城や池田家の「イエ」に関する事項、「一宮」は備前国全体に関わる事項について、それぞれ祈禱が行われていたとみられる。



44 東照宮御祭礼記 上、中、下

縦3冊 正保2年～天保11年(1645～1840)
P1-209 29.0×20.8

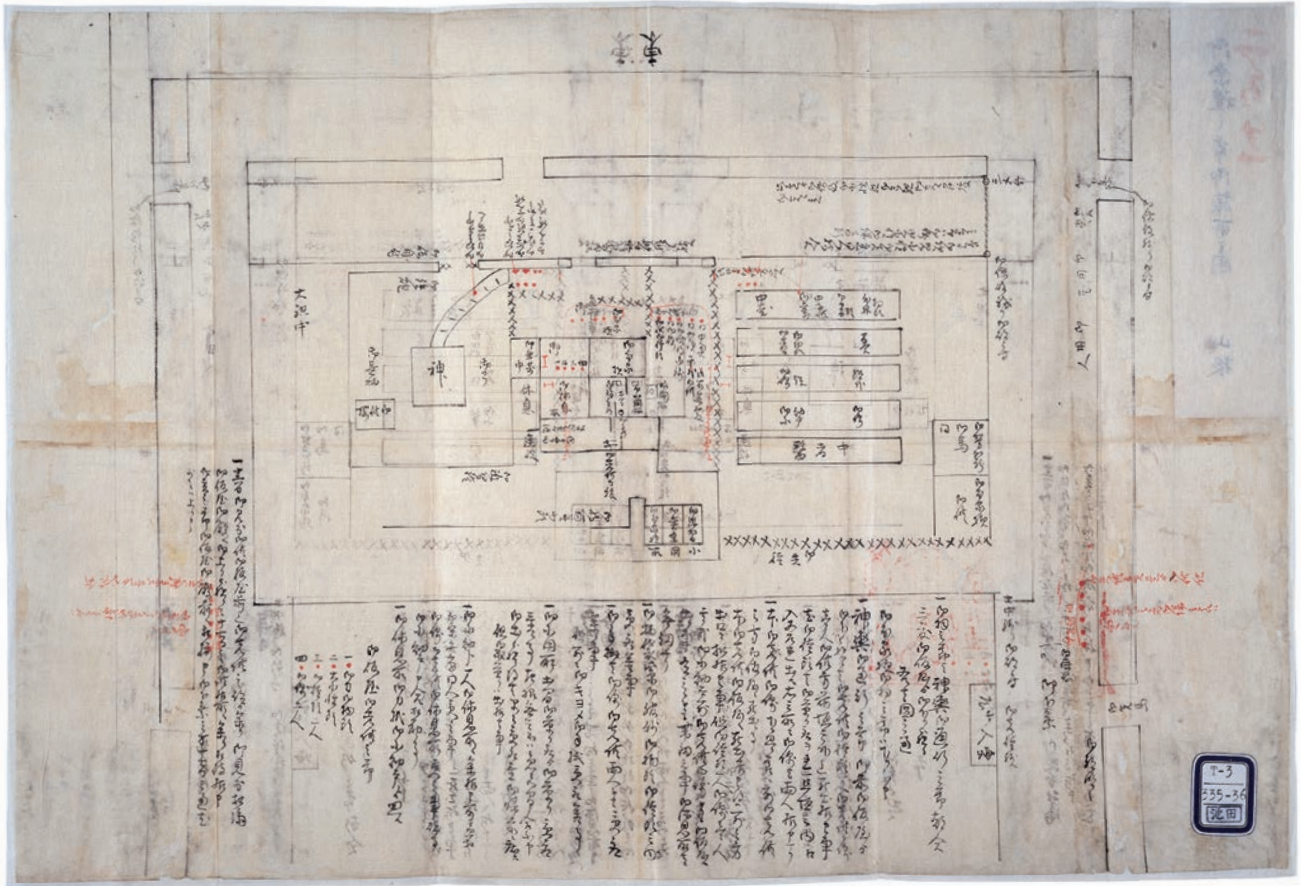
岡山藩の留方が作成した東照宮祭礼についての記録である。3冊全体としては正保2年(1645)の東照宮勧請から、翌年～天保11年(1840)までの祭礼の概略が記されている。展示箇所は正保3年(1646)に東照宮祭礼が開始された際の町方練物を書かれた箇所であり、この時には後代と比べて練物は小規模であったことがわかる。



45 御祭礼之節御旅所之図

1枚 年月日未詳 T3-335-36 27.6×41.0

東照宮祭礼の際に藩主が御旅所を参拝した時の先供の図とみられる。祭礼は家康の命日である4月17日か9月17日に行われ、城下町の北部に設けられた御旅所まで神輿渡御行列が城下町を縦断した。文政8年（1825）に作成されたとみられる絵図（T11-84、本展には出品されていない）とほぼ同内容のものであり、同年の事柄を描いたものである可能性が高い。



46 〔御祭礼御旅所御伺覚・口上触・その他諸事取計帳〕

横1冊 文化10年（1813）9月16日 C7-617 14.9×37.8

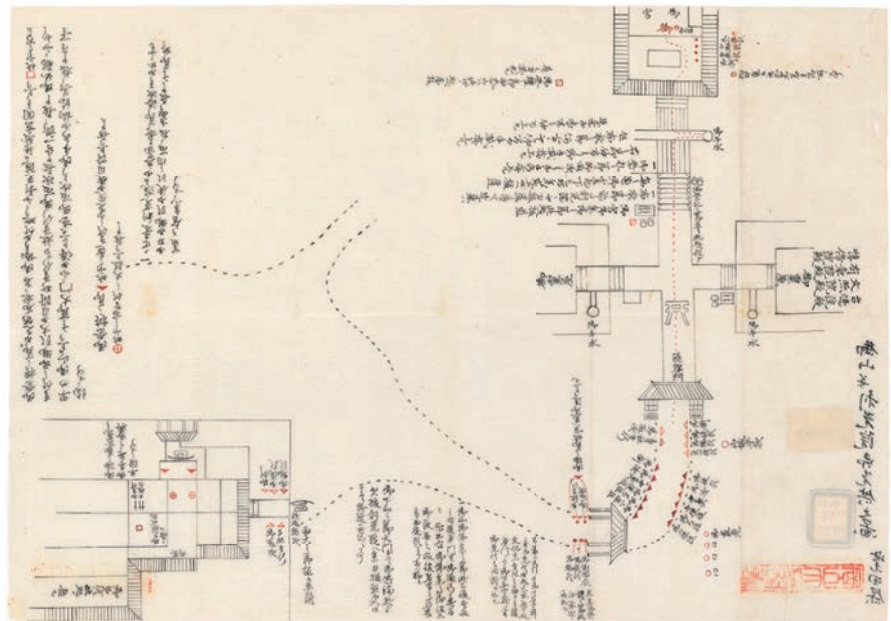
文化10年（1813）9月17日の東照宮祭礼に先立ち、同16日に御旅所を見分した際の記録である。翌日に向けての準備内容が逐一記されており、展示箇所左頁には藩主が御旅所から戻る際に船を用いるとされ、この船の内訳が記されている。展示箇所右の箇所には、船の並び順（「船列」）が記されている。周到な準備のもとに祭礼や藩主の出御がなされたことがわかる。



47 御山并利光院御先供之図

1枚 年月日未詳
T11-73 27.6×39.0

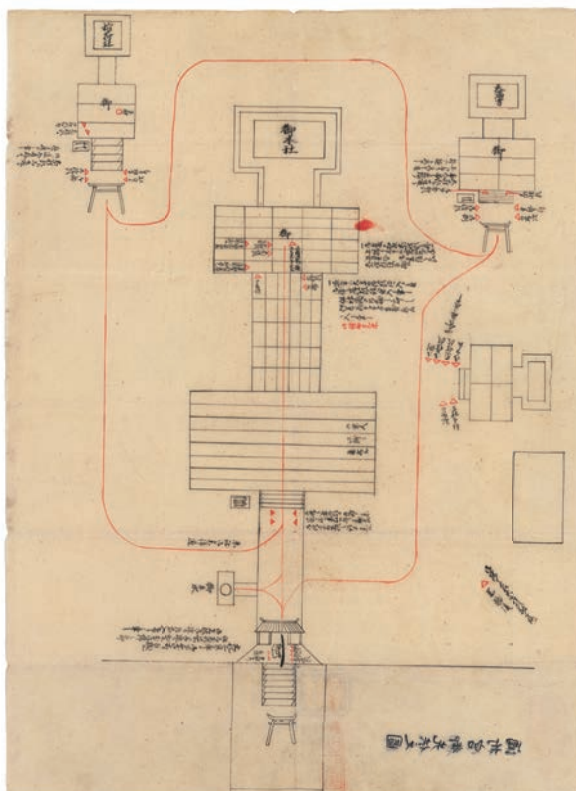
藩主が東照宮および利光院を参詣する際の供・詰役の配置を示した図。利光院は東照宮造営とともに建てられた別当寺である。明治3年(1870)には利光院跡地に岡山藩医学館が置かれており、現在は東山公園として整備されている。



48 酒折宮御先供之図

1枚 文化3年(1806)
T11-93 27.3×37.6

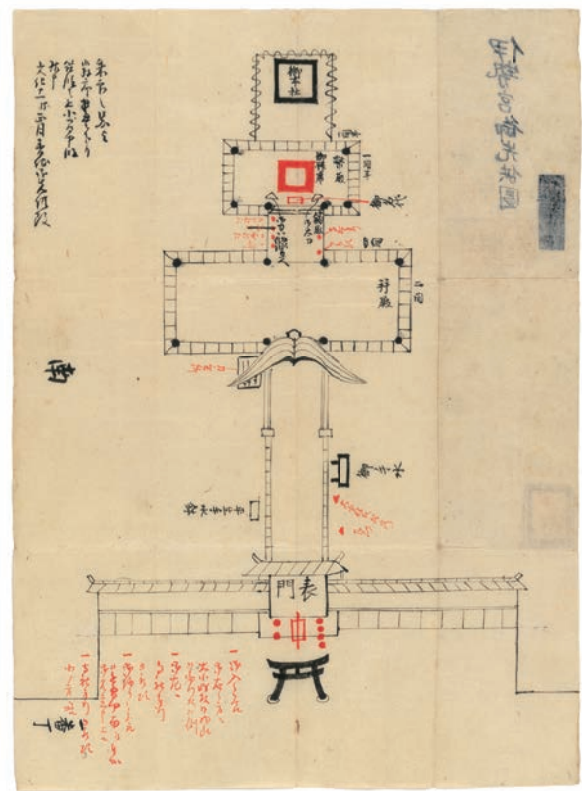
藩主が参詣する道筋を朱線で示し、先供や詰役の配置を朱の三角印などで示している。当時の藩主は池田光政を初代とすると6代目の池田斉政である。稲荷社や天満宮といった末社の参詣道も朱線で記されており、藩主が本社と末社の双方を参詣していたことがわかる。



49 伊勢宮御先供之図

1枚 文化11年(1814)
T11-104 32.8×23.5

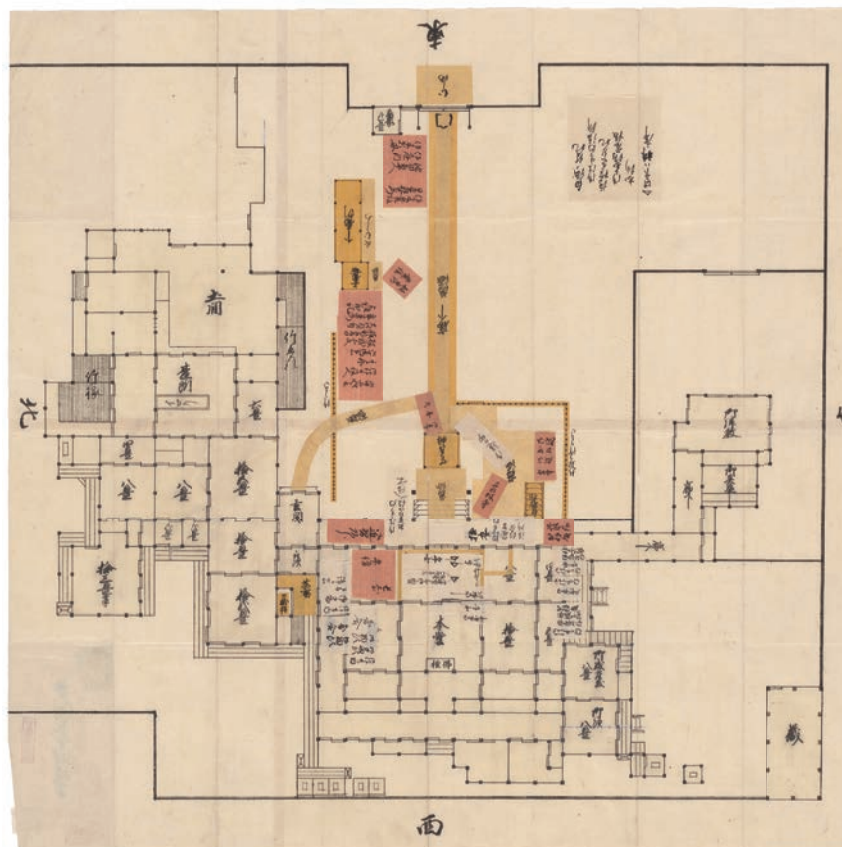
岡山城下小畑町(現在の北区番町二丁目)の伊勢宮(現在の呼称は伊勢神社)の参詣について示した図である。なお、平安時代中期の延喜式にも、同宮は「伊勢神社」として確認できる。池田家が祈願を行う際、他の神社と並んで伊勢宮が記されている史料が確認でき、社領10石を与えられていたことから、領内で重要な神社の1つとみられていたことがうかがえる。



50 養林寺絵図

1枚 年月日未詳
P1-436 55.7×55.5

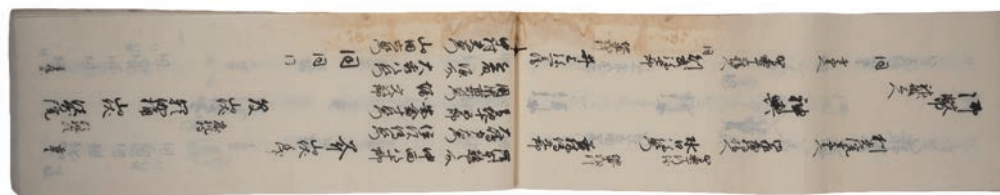
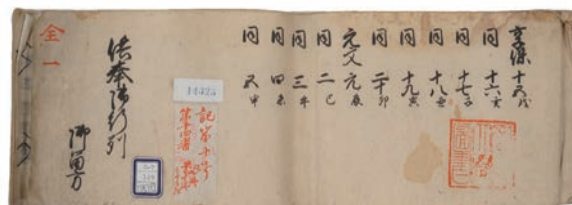
養林寺は、福照院（池田利隆室）の意向を受けて岡山城下塩見町（外堀の西岸に面し、東岸にあった藩学校の向かいに位置した町。現在の野田屋町一丁目・二丁目の東端と富田町二丁目の東南端に相当）に光政によって建立され、福照院・円盛院（本多忠刻女、光政室）・天樹院（徳川秀忠女、本多忠刻室）・真証院（丹羽光重女、池田綱政室）など、池田家の妻たちの位牌が収められていた。同寺の明治以降の動静は不明である。本図は、藩主が養林寺に参詣するに際して、薄縁・むしろなどの設営を黄色紙、法事の時の詰所を白紙、参詣前後の家臣の配置などを薄柿色紙を貼って示したものである。



51 供奉御行列

横1冊 享保15年～元文5年（1730～1740）
C7-129 13.2×39.0

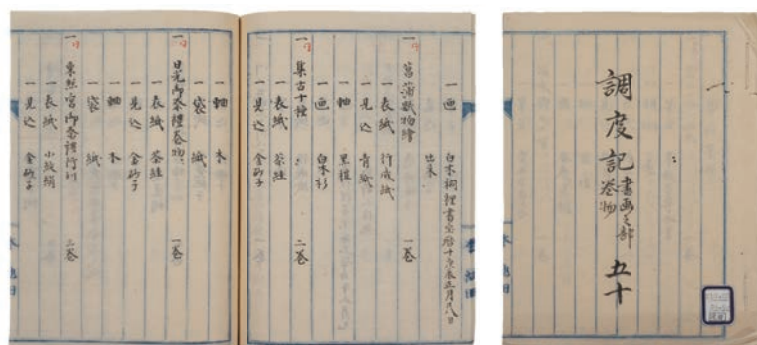
享保15年（1730）～元文5年（1740）までの東照宮祭礼の際の行列が記されている。展示箇所は元文4年（1739）祭礼の行列のうち、行列の中心である御幣と神輿が記されている箇所である。山伏などの宗教者も行列に参加していたことがわかる。他の箇所では城下の各町の町人の参加の様子もわかるが、元文4年（1739）から4年間は城下62町の惣町参加で練物が行われており、町人の祭礼参加が最も盛んであった時期である。



52 調度記 五十 書画卷物之部

縦1冊（明治前期）
和書 210.08 29-50 20.9×16.0

明治期に池田家の調度類を調査してまとめたと思われる冊子である。展示箇所の左頁に「東照宮御祭礼行列 三巻」とあり、これが現在林原美術館に所蔵されている「東照宮御祭礼図絵巻」（3巻本）にあたる。



【林原美術館出展資料】

林 1 東照宮御祭礼図絵巻

3巻（上・中・下） 江戸時代

邦画 191・192・193

上巻 18.5×1315.4

中巻 18.5×1451.9

下巻 18.3×1249.6

正保2年（1645）、岡山藩主池田光政は他藩に先駆けて徳川家康を祀る東照宮（現、玉井宮東照宮、岡山市中区）を勧請した。翌年から始まった祭礼行列は、江戸時代の岡山城下を代表する祭りであったが、明治維新後には途絶えた。本作品はその東照宮祭礼の行列を描いたもので、全3巻からなる。上巻に町方練物（笠鉦・武者行列・囃子段尻）、中巻に榊・神輿・五流山伏など祭礼の主たる供奉行列を描くなど、当時の様子がしのばれる。制作年は不明だが、画風などから江戸時代後期ころのものと考えられる。



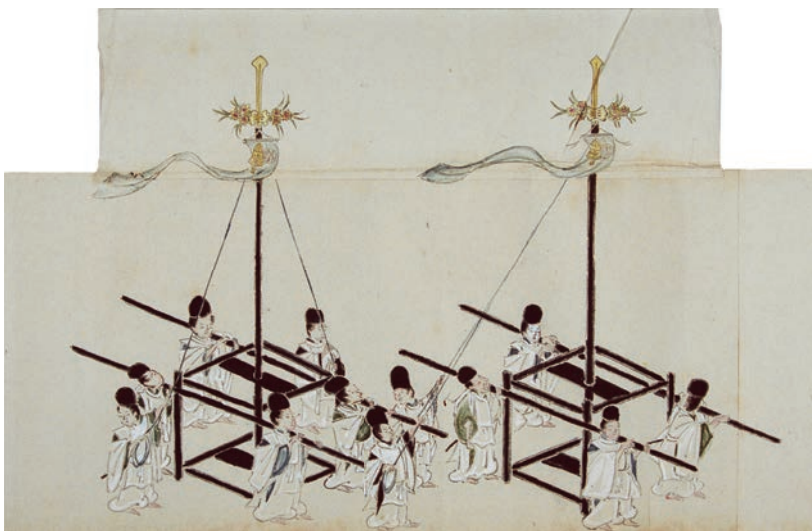
上巻 笠鉦



上巻 囃子段尻



中巻 榊



中巻 鉦



中巻 太鼓



中巻 獅子



中巻 弓と鎧輿



中巻 神輿



出展資料目録

番号	資料名	員数	年代	整理番号	法量(h×w,cm)
【岡山城と武士】					
1	御納戸大帳	竪1冊	寛永7年～寛文8年(1630～1668)	E1-1	28.0×21.0
2	備前国岡山城絵図	1幅	(正保期(1644～1648))	T3-84	242.4×196.7
3	〔御城内御絵図〕	1枚	元禄13年(1700)3月	T5-1	230.6×194.4
4	御城図	1枚	年月日未詳	T5-13-2	51.4×91.7
5	御本段図	1枚	年月日未詳	T5-13-1	50.3×73.5
6	岡山城天守閣東面実測古図	1枚	年月日未詳	T3-68	235.2×190.0
7	牙城郭櫓実測図	1帖	年月日未詳	T3-62	26.7×720.4
8	西御丸御絵図	1枚	宝暦6年(1756)8月	T5-32	175.0×119.2
9	円務院惣絵図	1枚	年月日未詳	T5-89	162.8×149.6
10	〔備前国岡山城堀浚修復願絵図〕	1枚	万治2年(1659)7月29日	T7-29-1	147.2×94.6
11	〔備前国岡山城廻普請願絵図〕	1枚	文化13年(1816)	T3-83	140.8×94.4
12	〔下之御屋敷御絵図〕	1枚	年月日未詳	T5-39	79.4×135.6
13	〔故郡会所・旧県庁ノ図〕	1枚	(明治期)	T4-6-1	75.4×54.5
14	〔御家老方御奉公書抜書〕(伊木長門)	竪1冊	文政3年(1820)	D3-3348-(5)	27.5×20.1
15	〔東西御門番人誓詞〕	1枚	享保3年(1718)3月6日～明和8年(1771)7月9日	F3-2-(3)	29.6×161.3
【岡山城下町と町人】					
16	〔岡山絵図〕	1幅	宝永5年(1708)カ	T6-24	158.2×137.3
17	備前岡山地理家宅一枚図	1枚	文久元年(1861)	T6-32	302.4×168.3
18	備前国郡村仮名附帳 備前国岡山城下町仮名附帳	竪1冊	享和3年(1803)	A2-18	27.3×19.6
19	町会所絵図	1枚	年月日未詳	T4-3	70.0×62.8
20	〔御郡会所之図〕	1枚	(寛政9年(1797))	T4-8	38.4×27.5
21	下出石町惣絵図	1枚	元治元年(1864)9月23日	T6-2	86.8×72.7
22	酒折宮地内ヨリ石関町之図	1枚	年月日未詳	T6-27	56.1×79.8
23	〔備前国岡山中島町仮橋絵図〕	1枚	年月日未詳	T6-1-3	38.0×50.6
24	〔備前国岡山古京町より片上町への仮橋絵図〕	1枚	年月日未詳	T6-1-4	38.0×43.7
25	〔岩田町新門願絵図〕	1枚	年月日未詳	T5-138-15	33.8×94.4
26	御奉公之品書上	竪1冊	明治3年(1870)正月	D3-2917	27.4×20.2
27	先祖書并御奉公書上	竪1冊	明治3年(1870)12月29日	D3-2916	27.8×20.0
28	先祖書并御奉公書上	竪1冊	明治3年(1870)12月29日	D3-2912	27.0×20.2
29	御出入町人名前帳	竪1冊	元治2年(1865)2月	G9-164	24.8×17.8
30	旧岡山藩村町役人配置方其他取調書	竪1冊	明治19年(1886)11月	E1-30-1	27.2×20.0
31	〔岡山市中魚市場青物市場等開設之起原〕	竪1冊	明治24年(1891)6月	K3-5	23.6×16.3
32	官許岡山県市中略図	1枚	明治8年(1875)	T6-13	37.1×76.6
33	岡山県医学校五百分一之図	1枚	(明治13年～同21年(1880～1888)頃)	R6-270-1	112.4×153.4
【岡山城下の災害と祭礼】					
34	町方困窮之者ヲ救候一件	竪1冊	延享元年(1744)	L4-7	26.7×20.3
35	甚雨洪水隣国之模様聞合覚	竪1冊	元文元年(1736)	L4-18	27.5×19.8
36	御囲穀為御見分倉敷御代官大原四郎右衛門殿御出之事	竪1冊	文化11年(1814)10月	L4-6	27.4×20.0
37	丁丑之初春一件	竪1冊	(宝暦7年(1757))	L4-12	23.2×16.5
38	御城下并近在出火之節壹歩御蔵江在役出張割	1枚	寛政2年(1790)8月	L4-16	31.7×170.0
39	寛政四壬子年七月廿六日大風ニ付御家中潰家等寄せ帳	横1冊	子年(寛政4(1792))8月	L4-47-1	14.7×38.0
40	大風ニ付諸手ノ届書留	横1冊	寛政4年(1792)7月	L4-47-2	14.5×37.5
41	岡山大洪水書類	竪1冊	明治25年(1892)7月	L4-11	24.6×16.9
42	御痘瘡之節於御国御祈禱仕御札江戸江指上目録	横1冊	享保16年(1731)3月	C5-595	14.0×40.6
43	御郡中五穀成就御祈禱記	竪1冊	天保7年～明治3年(1836～1870)	P1-155	27.6×18.0
44	東照宮御祭礼記 上、中、下	竪3冊	正保2年～天保11年(1645～1840)	P1-209	29.0×20.8
45	御祭礼之節御旅所之図	1枚	年月日未詳	T3-335-36	27.6×41.0
46	〔御祭礼御旅所御伺覚・口上触・その他諸事取計帳〕	横1冊	文化10年(1813)9月16日	C7-617	14.9×37.8
47	御山并利光院御先供之図	1枚	年月日未詳	T11-73	27.6×39.0
48	酒折宮御先供之図	1枚	文化3年(1806)	T11-93	27.3×37.6
49	伊勢宮御先供之図	1枚	文化11年(1814)	T11-104	32.8×23.5
50	養林寺絵図	1枚	年月日未詳	P1-436	55.7×55.5
51	供奉御行列	横1冊	享保15年～元文5年(1730～1740)	C7-129	13.2×39.0
52	調度記 五十 書画卷物之部	竪1冊	(明治前期)	和書210.08 29-50	20.9×16.0
【林原美術館】					
林1	東照宮御祭礼図絵巻	3巻 (上・中・下)	江戸時代	邦画191 192 193	上巻18.5×1315.4 中巻18.5×1451.9 下巻18.3×1249.6

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後樂園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム
令和元	武家と天皇	2019年10月19日～11月4日	岡山シティミュージアム
令和2	岡山・大坂と海の道	2020年10月31日～11月15日	岡山シティミュージアム
令和3	岡山藩と武芸	2021年10月30日～11月14日	岡山シティミュージアム
令和4	岡山城と人々の暮らし	2022年10月22日～11月20日	岡山シティミュージアム

記念講演会

年度	記念講演会	記念講演会講師 (役職は当時)	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後樂園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 三宅正浩	2017年11月12日

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期 日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2018年11月10日
令和元	『大嘗祭』の誕生 一古代の皇位継承儀礼の生成と変異一	専修大学名誉教授 荒木敏夫	2019年10月26日
令和2	西国の武士、大坂に出張する 一蔵屋敷と大坂城加番一	兵庫県立歴史博物館長 藪田貫	2020年11月7日
令和3	戦国合戦図屏風の世界 一池田家にかかわる作品を中心に一	茨城大学人文社会科学部人間文化学科教授 高橋修	2021年11月6日
令和4	近世日光山と諸国の東照宮 一建築とまつり一	筑波大学人文社会系 准教授 山澤 学	2022年11月12日

パネルディスカッション

年度	パネルディスカッション	期 日
平成23	国絵図復活 東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 〔司会〕東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年10月23日

令和4年度企画展 池田家文庫絵図展 岡山城と人々のくらし

発行日／令和4年10月22日

主 催／岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム

共 催／林原美術館

発 行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1

印 刷／株式会社アネスト

岡山大学学都基金

—地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する—



「岡山大学学都基金」では、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実を図るとともに、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学の進展等に資することを目的として、平成27年4月から募金活動を行っております。

現在、大学の運営基盤を支える運営費交付金は毎年減少傾向にあり、本学を取り巻く環境は大変厳しくなっております。卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、「岡山大学学都基金」についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



リサイクル募金によるご寄付も受付中

お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局(総務・企画部総務課)

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7009 E-mail: kikin@adm.okayama-u.ac.jp
電話受付: 9:00-17:00(土・日・祝日除く)

寄付金の申込方法

左の連絡先に、ご住所とお名前をお知らせください。折り返しお送りするパンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。本学へのご寄付は、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、ホームページをご覧ください。



岡山大学学都基金

検索

学都基金ホームページ

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>



池田家文庫資料叢書



岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編（編集代表：倉地克直）

A5 版 / クロス装・ケース付

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。

池田家文庫資料叢書 3

「御留帳評定書」上・下巻 各 19,800 円（税込）

【上巻】本文 605 頁、解説 19 頁 【下巻】本文 558 頁

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録した、当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料です。

池田家文庫資料叢書 2

「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

【上巻】本文 598 頁、解説 22 頁 11,000 円（税込）

【下巻】本文 749 頁、解説 25 頁 12,222 円（税込）

池田家文庫資料叢書 1

「御留帳御船手」上・下巻 各 7,700 円（税込）

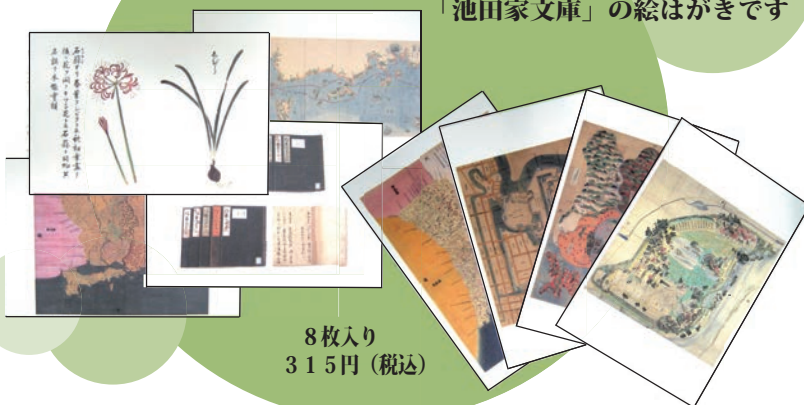
【上巻】本文 627 頁、解説 9 頁 【下巻】本文 716 頁



※電子書籍版（機関向け）が発売されました。詳しくは弊社 HP <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/> をご覧ください。

池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料
「池田家文庫」の絵はがきです



8 枚入り
315 円（税込）

※絵はがきは出版会に直接お申し込みください
書店での販売はございません



8 枚入り
315 円
（税込）

岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせ下さい。
メールでのご注文はこちらへ → okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 |

検索

<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>